

日本における予防医療教育プログラムの開発と評価に関する研究のお知らせ

神奈川県立保健福祉大学ヘルスイノベーション研究科では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間	2022年7月20日～2026年3月31日
研究課題	日本における予防医療教育プログラムの開発と評価
研究の概要	<p>目的及び意義：</p> <p>個人の行動変容を促す研究・実践プログラムの重要性は、近年世界的に注目されている。生活習慣の改善は、個人の健康状態の改善だけでなく、医療費の削減、労働生産性の向上にもつながる。4つの生活習慣（食生活、運動、喫煙、飲酒）を完璧に改善すれば、日米両国で総医療費の三分の一を削減できるという報告がある。それ故、近年米国では、生活習慣の改善を目指す予防医療教育プログラムは、医療保険給付の対象・雇業者への税控除の対象になることが契機になり、参加者が急増している。</p> <p>しかし、米国のみならず日本の生活習慣の改善を目指す予防医療教育プログラムは、依然として、低い参加率、参加後の高い脱落率、プログラムの効果が持続しない等の多くの問題を抱えている。</p> <p>これらの問題を解決する為、研究代表者である Y00 は、生活習慣における個人の行動変容を促す、新奇の健康教育プログラムを米国で開発した。この健康教育プログラムの特徴は、演劇の手法を取り入れていることである。このプログラムはパイロット的に、Y00 が勤務していたカリフォルニア大学デービス校で、正規の講義として 2019 年に実施された。このパイロット研究で対象にしたのは、2つの生活習慣（食生活、運動）である。</p> <p>本研究の総論的な目的は、Y00 が米国で開発した健康教育プログラムを、日本の文化に合わせて改善し、普及させることである。具体的な目的は、（1）この健康教育プログラムを担当するファシリテーター向けのマニュアルの作成とファシリテーターの養成、（2）この教育プログラムを実施して、経済学的評価を含む広義の評価を実施することである。</p> <p>対象：</p> <p>本研究は、本学での先行研究である「予防医療教育プログラムの開発と評価」と研究の目的・方法は同じであるが、本学の学生以外を研究対象とする。</p> <p>方法：</p> <p>介入の評価は、任意の無記名の調査で実施する。主要アウトカムは、「1週間当たりの運動時間（単位は分）」、「一日当たりの野菜・果物の摂取（単位はCUP）」、「効用」、「コロナ・ワクチン接種の回数」、「コロナ PCR 検査の回数」。介入の評価として費用対効果分析・費用便益分析を行う。</p>

研究組織	【研究代表者】 ヘルスイノベーション研究科・教授・Y00 Byung Kwang (ユウ ヘイキヨウ) 【研究分担者】 本学栄養学科・教授・田中 和美 本学看護学科・教授・臺 有桂 本学看護学科・准教授・中山 直子
個人情報の 取扱い	個人を特定できる情報を収集しない。調査は無記名で行う。
その他	

対象となる方で、研究の内容や、ご自身の検査結果などの研究への使用に関して、より詳しい情報をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。ご協力よろしくお願い申し上げます。

〔問い合わせ先〕

研究代表者： ヘルスイノベーション研究科 教授 Y00 Byung Kwang (ユウ ヘイキヨウ)

TEL : 044-589-8100 (代表)